
サンタさんのプレゼント

留輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サンタさんのプレゼント

【Nコード】

N7907Z

【作者名】

留輝

【あらすじ】

小学生の話です。

幼馴染の少年と少女。

サンタさんからプレゼントをもらいました。

「れーい！ サンタさんに何もらった？」

小学生になったばかりだと思われる少年が、プレゼントを手になにこにこ笑っている。

「サンタさんなんていないんだよ」

そんな純粹過ぎる少年を横に、少女はあっさりと現実を告げる。

「え……」

ついさっきまでにこにこ笑っていた少年の目に涙がたまる。

「サンタさん、いないの？」

「私は悪い子だったから」

「えー、麗れい悪い子？」

さすがに、麗と呼ばれる少女も悪いと思ったのか、焦りながら言い訳をする。

「それで、竜りゅうは何をもらったの？」

「ん！」

今日1番の笑顔で、少年はプレゼント箱を少女の前に差し出す。

「開けてないじゃない」

「麗と一緒に見ようと思って！」

純粹過ぎるぐらいの笑顔で少年は見せる。

「……ばっかみたい」

「え？」

「なんでもない。さ、開けて」

少女の方も、少年につられてなのか、嬉しそうに笑う。

「「せーの！」」

2人の小さな子どもの声が重なり、一緒に箱を開ける。

「クッキーだよ！」

「ほんとだ」

子どものプレゼントにクッキーとは少し驚くことだが。

それでも、2人の子どもは嬉しそうに笑っている。

そして、箱の中のクッキーは、明らかに1人分ではなさそうな量が入っている。

「麗、一緒に食べよう」

「でも竜でしょ？」

「だって、1人じゃ食べきれないし。麗と食べたいもん！」

ただ、ただ純粹に少年は笑う。

「うん！」

少女もまた、笑う。

「おいしいね」

「うん。麗と食べてるから！」

家の外で降る雪のように真っ白な笑顔。

心の底から嬉しそうに、楽しんで。

2人の少年と少女は笑う

(後書き)

正直、めちゃめちゃ恥ずかしい話です。
そしていまだに3人称は難しい……。

<http://ncode.syosetu.com/n4433y/>

の2人が幼いころ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7907z/>

サンタさんのプレゼント

2011年12月25日14時52分発行